

——うずしおマラソンが築いた宝物——

大会を終える今、「ありがとう」と告げる

夢のかけはし「大鳴門橋」が開通が近づいていた30年前……。橋の上を走り抜けて四国へ渡るような夢もあった。うず潮を眼下に望む地域を満喫しながらランナーがそれぞれの時代を駆け巡ってきた。人々がつなぎ、大切に守ってきたマラソンの歴史が幕を閉じた。

マラソンの記憶は残る

昭和56年5月、うずしおマラソンは、夢の架け橋大鳴門橋開通を歓迎する事業として始まりました。ピーク時は、3000人を超える参加があり、昭和60年と平成7年を除くと毎年開催。30回

を数えたうずしおマラソンも区切りを迎え、今大会を最後に幕を閉じました。「第1回大会はどしゃ降りでした。いっこうに止まない雨の中、昼過ぎには予定通りスタートしました。」こう当時を振り返るのは、30回連続出場の本昭治さん（福良）。19歳でマラソンを

人・物・景色・思い出、全ては時代とともに移りゆく。街で弁当を買ったランナーの笑顔、宿泊した思い出。年月をかけて培われてきたものに對し、過去と未来、全てのものに「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたい――。

激しい雨に見舞われた第1回大会では、鳴門海峡を眺望できる門崎を出発点（以後は福良小）とし、1,347人全員が完走しました。



interview／守本昭治さん

年16回ほどマラソンに出場し、フルマラソンにも年1回は参加します。うずしおマラソンのコースは、昔から毎日1時間走ります。走ることが日常生活になっています。

interview／轟孝博さん

大会当日のほか、前夜祭でランナー同士の交流も盛んでした。郷土芸能の発表などで、地域が参加者を迎える気持ちが表れていました。30年、本当に和やかな大会でした。



発展的な中止、かつての大会を想う

当時から実行委員を務めた轟孝博さん（八木）は、大会の終了を将来のことを考えた発展的なものといっています。「うずしおマラソンは、5km・10kmから始まり、陸連公認のコースとして10マイル・ハーフと距離を伸ばしてきました。かつて中止の話が出た頃もありましたが、節目節目で繋がってきました。今後何かをしたいとの実行委員会の想いもあり、中止となったのです。」沿道での応援や水補給など、地域の支えなくして続かなかったという轟さんは、開催の都度、地域全体が参加者を歓迎するムードだったと話します。結婚や誕生日、3世代で走るなど記念に走った人も多くいるはずです。走った人、運営してきた人すべてに：「ありがとう、うずしおマラソン」。

始め、人生の3分の2近くを走り続けてきました。マラソンは個人競技ですがランナー同士は交流があります。地元の仲間や島外の走友会、最初は年賀状から始まって、「今年は淡路島に行くで」とか、仲間内でマラソンを通じて繋がりも数多くありました。「島外から来たランナーを地元で迎えて一緒に走る。強いランナーの技術をテレビとは全く違った角度で近くで見ると魅力はたくさんあった。終えるのは残念ですが、30回全てがよい大会でした。」平成4年、大会事務局に手紙が届きました。「沿道で高校生が大声で応援してくれた。」旧志知高校陸上部の生徒1人がゼッケンの番号を読み上げ、後ろの生徒が名簿をチェック。通過する選手一人一人の名前を大声で呼び掛けていました。「どこの大会に行ってもこんなもてなしはなかった。嬉しかった」と書いてありました。



第5回大会（S61）



第21回大会（H14）



第4回大会（S59）



第2回大会（S57）

第4回大会では唯一、高速道路上を走り、建設中の大鳴門橋の手前まで走りました。建設中の橋は、13kmの折り返し地点となっていました。



第6回大会（S62）



第12回大会（H5）



第13回大会（H6）



第15回大会（H8）



第16回大会（H9）



第12回大会（H5）

再興するのは難しいが、大会に関わった全ての人の思い出として一生残っていくと思います。」

—陰の立役者—30年間看板などを設置・撤去

大会を裏方で支えた人



野上春男さん（福良）

「私は、決勝点のムードを知らない。」野上さんは、全ての大会で裏方に徹しました。大会当日を含め3日間は準備と片づけ。当日朝は6時、天候が悪ければ4時に会場に向かいました。開会式後、野上さんの仕事が始まります。最終ランナーが通った後、バリエードやコーン、看板を撤去していきます。交通規制解除のために、作業は大会終了まで続きます。戻ると会場にはスタッフのみだったといえます。選手がテープを切る瞬間を見ることはありませんでした。「大きな事故もなく多くの人が走ってもらって、楽しい30年間でした。やめると同じように再興するのは難しいが、大会に関わった全ての人の思い出として一生残っていくと思います。」

※1 昭和60年＝完成間近の大鳴門橋の工事の関係などで、うずしおマラソンが開催されませんでした。その代わりに、

同年5月25日・26日に大鳴門橋開通記念橋上歩行見学会が催され、6月8日には、大鳴門橋が開通しました。

※2 平成7年＝阪神淡路大震災が同年1月17日にあったため、被災者への配慮などから中止となりました。